

---

# 詩歌燦々

夢野ユーマ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

詩歌燦々

### 【Nコード】

N5031N

### 【作者名】

夢野ユーマ

### 【あらすじ】

詩歌に寄せる想い。詩歌談義。

## 歌人の長生き

穂村弘の「本当は違うんだ日記」（近年出色の面白さだった。）を読んでいたら、面白いくだりがあった。

歌人は元気で長生きで好色で食欲旺盛で、繊細な穂村さんはその中でちょっと苦しんでいる。

しかし、確かに歌人はすごい長生きか、若くして天才的な作品を残し、非業の死をとげるかの両極端が多い。

前者は古代だと俊成、定家。近代だと土屋文明、土岐善麿、まだ生きている人なら岡部桂一郎先生は95才！

しかし頭よく、ちょっと意地悪な穂村さんは歌人は元気で優しいが、学歴みたいな意味でなく世間のことに無知で馬鹿であるとバツサリ切っていた。

うーん、その分析正解なり！

俊成や定家が源平興亡の時代に歌を利用して金儲けをしていたのはともかく、土岐善麿や斎藤茂吉が第二次大戦が終わった時、日本が悪い国なんて思わなかったと涙を流している。とか言っているのはちょっと愚かだろう。太宰治が「如是我聞」で追及していた戦争に協力していた文豪がいると言うのは二人なんじゃないか？

また土屋文明の安保闘争で亡くなった青年たちへのレクイエムも真面目だけど、やはりちよつと弱々しい。

岡部桂一郎先生は現実全く無視の幻想美である。

ここで問題が私である。私も歌人のはしくれである。作品を残し非業の死をとげるチャンスは終わりにかけている。

太宰治の「斜陽」では美しく優しい人は早死にし、悪人は長生きする。とある。

どうしよう。先輩には「100年後もいるわよ!」と一喝された。

## 歌から学んだこと

大学時代、急に歌を作り出した。三角先生という王朝文化の研究をなさっている教授の授業にマンガ雑誌を持った男の子がドタバタと走り込んできた。それが面白く「初夏の午後マガジン持って教室に遅刻してくる君の青春」という歌を作った。

不思議なことに何かどんどん歌は出来て、けっこう新聞に載った。しかし、その中で学んだことがある。技巧を否定するという単純な意味ではないが、何となく肩に入った自信作みたいなのは落選しやすく、（こんなのいいかな？）というような軽い作品が載ることが多かった。選者の俵万智さんの個性もあるのだろうが、私はより一般的に芸術において、作品は作者の手を離れたらどういう評価を受けるかは分からないという普遍の真理を学んだ。しかし、それに圧倒されるよりは、何が受けるかは分からないんだからちよつとも思いついたことはなるべく書こうという前向き、積極的にとらえるようにした。

生徒に論文を書かせる時も何でも思いついたことは積極的に書きなさい、と教えている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5031n/>

---

詩歌燦々

2010年10月12日10時04分発行